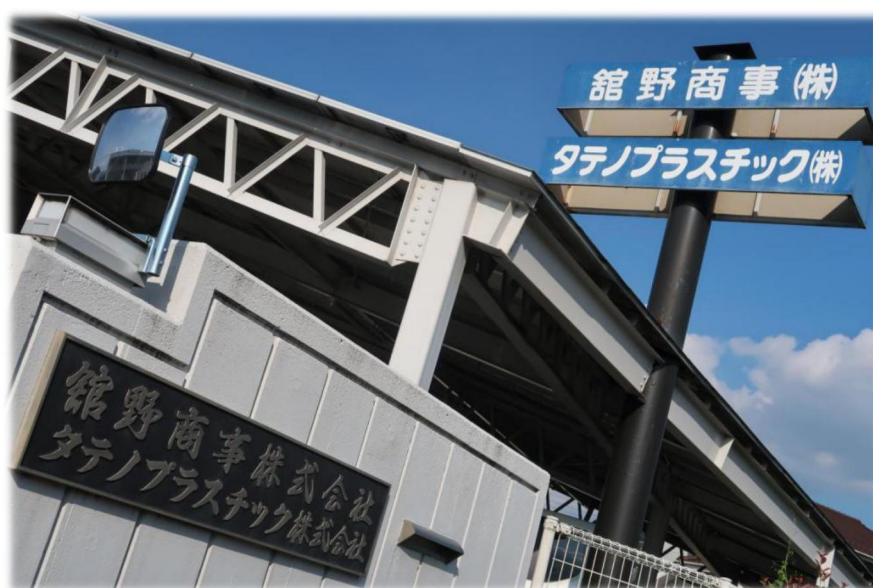




2024 年度

エコアクション21 環境経営レポート

(活動期間 2023 年 12 月 01 日～2024 年 11 月 30 日)



樹脂と電子デバイスの総合商社

館野商事株式会社

Plastic material, Electronic device

TATENO is professional supplier

2025 年 3 月 1 日発行

目次

1. 会社概要
2. 環境経営方針
3. 環境マネジメント推進体制図
4. 環境経営目標と活動計画内容
5. 実績と取組評価
6. 次年度の取組み内容
7. 環境関連法規等の順守状況と違反、訴訟の有無
8. 代表者による全体評価と見直し



1.会社概要

事業所名	舘野商事株式会社	
代表者	代表取締役社長	須藤 弘
事業所	本社	栃木県足利市樺崎町333-1
	倉庫	栃木県足利市樺崎町333-1
	中部営業所	愛知県名古屋市中区丸の内2-17-13 NK 丸の内ビル7階
	香港事務所 ※EA21活動は対象外です。	Room 402,New Landwide Comm.Bldg., 73 Kinberley Rd,TST,KLN,Hong Kong
環境管理責任者	代表取締役社長 須藤 弘	
環境管理担当者	営業部 企画CS課 野尻 寿子	
連絡先	TEL : 0284-44-1111 FAX : 0284-44-1119	
事業内容	プラスチックの総合商社 ① 合成樹脂原料販売 ② 射出成形機、周辺機器販売 ③ 成形品・金型関連販売 ④ 副資材販売 ⑤ デバイス販売	
事業規模	資本金	30,000千円
	従業員数	30名
	床面積	462㎡
	土地面積	5,668㎡

※香港事務所はEA21活動対象外です。

2.環境経営方針

基本理念

私たちは、家族と企業の繁栄と発展のために、プラスチック事業を通して、環境負荷に配慮した企業活動を推進し、人と環境に優しい循環型の社会の実現と環境保全に努めます。

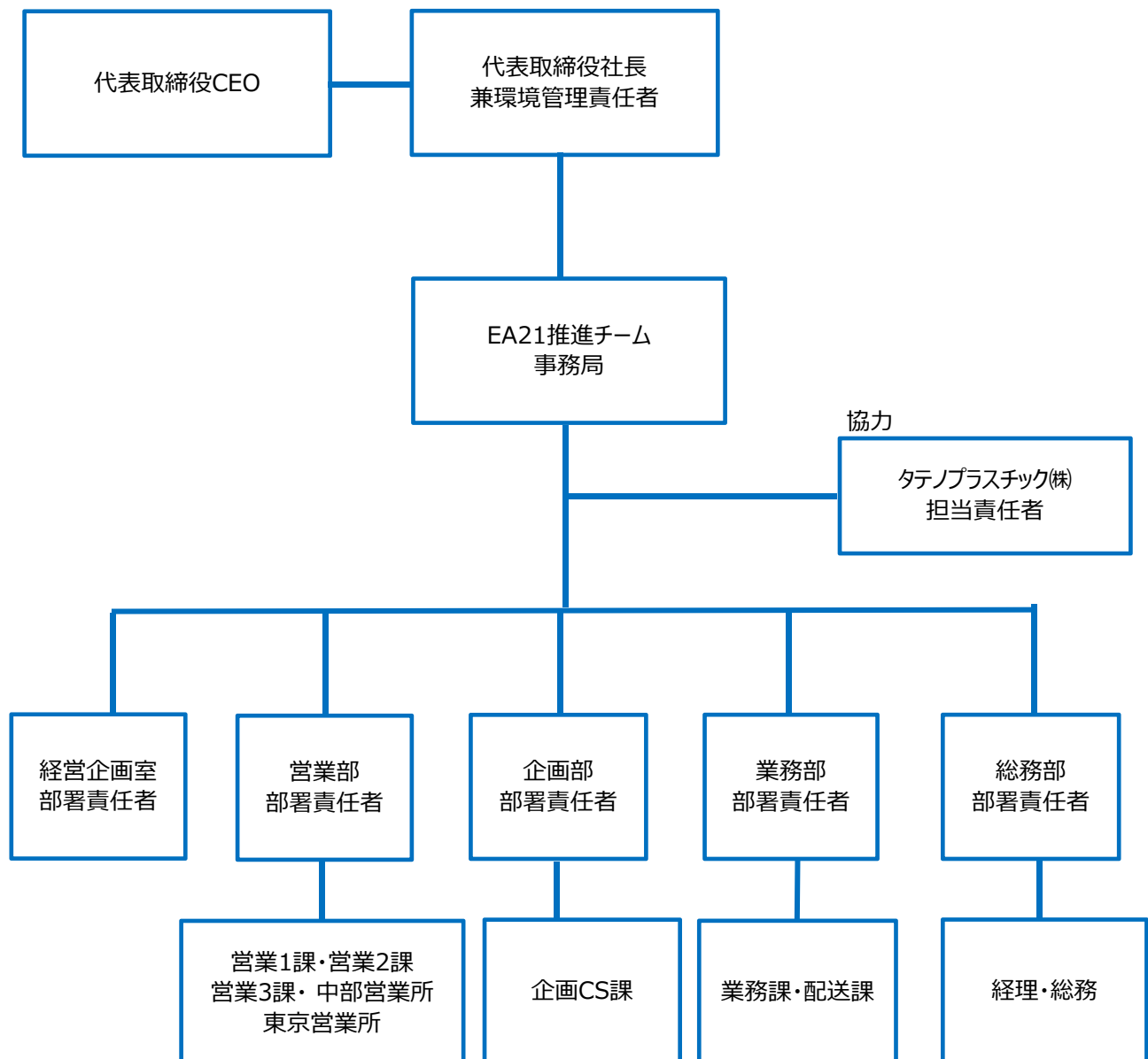
行動方針

1. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を行いその維持向上に努めます。
2. 事業活動において、エネルギーの効率的使用に努めます。
3. 省資源活動としてリサイクル活動を積極的に実施するとともに、廃棄物の削減を目指します。
4. 水資源の有効活用により節水を推進します。
5. 環境関連の法令、条例など遵守するように努めます。
6. 全社員は、職場、地域、家庭での環境保全の推進に努めます。
7. 環境負荷物質の少ない製品や省エネ製品の販売を推進します。
8. 再生可能なバイオマスプラスチックを世の中に浸透させることにより、CO2排出量削減に貢献します。
9. 環境負荷低減活動に積極的に取り組み、事務用品等のグリーン購入を推進します。

2023年8月21日

代表取締役社長 須藤 弘

3-1.環境マネジメント推進体制図



3-2.役割・責任・権限

職 名	役割・責任・権限
代表取締役	・ 環境経営方針を決定する。
	・ 環境マネジメントシステムを承認する。
	・ 環境管理責任者を任命する。
	・ 評価と見直しを行い、必要な指示を環境管理責任者に行う。
	・ 問題点の是正処置が適正であるか判断し、承認する。
環境管理責任者	・ 環境経営方針をレビューする
	・ 環境経営目標及び環境経営計画を承認する。
	・ 各自の役割、責任及び権限を含む実施体制を定める。
	・ 取り組みを評価する。
	・ 苦情処理に対応する。
	・ 緊急時における対応を指示する。
	・ 環境経営全般の運用を監視する。
	・ 代表取締役へ運用状況などを報告する。
事務局	・ 環境経営目標及び環境経営計画を策定する。
	・ 年度計画表を策定し、実行する。
	・ 教育訓練・目標計画を策定し、実行する。
	・ 環境経営システムの運用を推進する。
	・ 環境負荷となる活動を特定する。
	・ 各種報告書を作成する。
	・ 環境経営レポートを作成して公開する。
	・ 条例・法令を管理する。
	・ 文書及び記録を管理する。
	・ 外部からの問い合わせに対応する。
	・ 是正・予防措置を検討する。
各推進メンバー	・ 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画を従業員に周知する。
	・ 環境経営目標、環境経営計画の実行指示及び推進状況の把握を行い、事務局へ報告する。
	・ 法規を遵守する。
	・ 担当セクションに関する教育・訓練を実施する。
従業員	・ 環境管理責任者、事務局及び推進メンバーの指示に基づき行動する。

※ 環境マネジメント行動基準を参照願います。

4.環境目標と活動計画内容

	中期目標 2024年度	環境目標	活動計画
営業部	① 燃費 営業車両8台 2023年 = 15.58km/l 2024年 = 18.20km/l 2025年 = 18.30km/l	営業車両8台平均燃費 18.20km/l ※設定理由)最後にハイブリット車へ入れ替えが7月であった為、最もエアコンを使用する8月を目安に目標を設定	・省エネ運転の継続・積荷の最適化 ・車内清掃の実施 ・車両点検チェックの実施 ・車両5Sの活動実施 ・車両買替時のエコカーへの検討 ・上記内容の社内周知 ・運行記録を取る・効率化の確認 ・ドライブレコーダー搭載による安全確保
	② 省エネ製品の販売推進 ※営業目標に準ずる	省エネ製品の販売促進（成形機） ・成形機・周辺機器案件 2023年度案件実績の43件以上 ・省エネ製品の新商材開発	・油圧成形機から電動成形機の提案 ・情報交換の定期実施 ・省エネ製品の新商材開発 ・展示会の参加・新商材の開拓、販促 ・上記活動の記録、管理
	③ 環境負荷物の少ない製品の提供継続 ※営業目標に準ずる	環境負荷物質の少ない製品の提供継続 新規商材セルロース系高機能バイオ素材（NeCycle）の共同開発と拡販	・提案と販売促進 ・勉強会＆情報交換の実施 = 1回/月 ・上記活動の記録、管理 ・SDSの保管、管理
	④ 燃費 役員車両3台	データ取り 車両入替が頻繁である為、目標の設定が困難	
	⑤ 全車両燃費のデータ取り	データ取り	
配送課	① 各車両燃費 4 t (6352) 6.6km/L 4 t (227) 6.3km/L 2 t (266) 7.3km/L	各車両平均燃費 4 t (6352) 6.61km/L 4 t (227) 6.31km/L 2 t (266) 7.32km/L	・エコドライブの遵守 ・配送ルートの効率化 ・積載効率の向上 ・アイドリングストップ ・タイヤの空気圧の適正維持 定期的なローテーション
	② 5S活動	5S活動（1回/半期） 破袋品の有効活用 （外注による破袋含む） 緩衝材再利用の検討	・倉庫内の効率化、破袋未然防止、事故防止 ・破袋品の処理の把握及び再利用の推進 ・パレットの再利用 ・緩衝材の再利用
	③ 倉庫の電気量の節電	倉庫電気量の節電 （前年同月使用量以下を目標値とする） 目標値：1,020.92kw以下	・トラックヤードのLED化 ・ディーゼルフォークから電気フォークへの切替え検討
廃棄物	① 可燃ごみ排出の削減 年間193.1kg以下 分別の徹底	2020年度より維持活動とする 可燃ごみ排出削減と分別の徹底 可燃物排出量193.1kg以下	・マニュアルによる分別後の整理と管理の実施 ・廃棄物置き場の徹底と強化 ・可燃ごみと再生分別の定期的周知 ・不燃ごみ分別のルール化と周知
	② 電子化（ペーパーレス）	コピー用紙の使用量の把握 複合機の印刷物カウント	・購入枚数の把握・裏紙専用プリンター設置 ・電子化への意識の向上を図る ・電子化に関する社内アンケートの実施 ・電子化へのハードルを下げる活動の実施
	② 環境整備活動（5S）	環境整備活動の推進	・環境整備活動の社内展開
電気・水道	① 節電 3,974.3kwh/月以下 （維持活動）	使用量3,974.3kwh/月以下 ※目標値 = 前年使用量 電気使用量前年同月数値以下	・節電マニュアルによる活動の継続 ・エアコン設定温度の徹底 ・クールビズ・ウォームビズの推進 ・節電強化月間の実施（夏季） ・金額での表示（身近に感じられるように数値化する）
	② 節水 水道使用量23.2㎡以下	水道使用量23.2㎡以下 ※目標値 = 前年使用量	・節水の継続実施
	③ 紙の使用量の削減	紙の使用量の削減推進 ※廃棄物部門と連動	・廃棄物（業務）部門と連携して、ペーパーレス化を推進する

※中期目標は、2023年度から2025年度の3ヶ年で目標策定

5.実績と取組評価

	環境目標	実績	取組結果の評価																
営業部	営業車両8台平均燃費 18.20km/l	17.79km/l 未達成 <過去実績> 2022年： 16.36km/l 2023年： 18.19km/l 2024年： 17.79km/l	2023年と2024年の平均気温の差はあまりないが、最低気温が2023年度よりも高く、また10月まで気温が高い日が続いたため、冷房の使用時間が増え、燃費が昨年よりも落ちてしまった。																
	省エネ製品の販売推進	・営業目標及び案件数共に未達成	成形機販売の営業目標を達成することができず、案件(紹介)件数は昨年の約8割程度に留まった。																
	環境負荷物質の少ない製品の提供継続	・営業目標 未達成 ・紹介件数 達成	営業目標については、既存品の在庫調整と仕様変更に伴い未達となったが、バイオマス素材 NeCycleのランナップが増えたことに伴い、紹介件数は昨年を上回る事ができた。次年度の販売獲得に期待したい。																
配送課	各車両平均燃費 ①4 t (6352)6.62km/L ②4 t (227) 6.32km/L ③2 t (2701) 7.32km/L	① 6.74km/l : 達成 ② 6.40km/l : 達成 ③ 7.24km/l : 未達成	4t車両は2台とも目標値を達成することが出来た。2 t 車両は使用が限定的な為、継続してデータ取りの位置づけとしている。配送課の継続的な工夫と努力により、4 t 車の目標達成及び、①4 t (6352)の昨年度より大幅な燃費向上に繋がった。 <table><tr><th>過去実績</th><th>2022年</th><th>2023年</th><th>2024年</th></tr><tr><td>①</td><td>6.77km/l</td><td>6.68km/l</td><td>6.74km/l</td></tr><tr><td>②</td><td>6.39km/l</td><td>6.56km/l</td><td>6.40km/l</td></tr><tr><td>③</td><td>7.40km/l</td><td>7.24km/l</td><td>7.24km/l</td></tr></table>	過去実績	2022年	2023年	2024年	①	6.77km/l	6.68km/l	6.74km/l	②	6.39km/l	6.56km/l	6.40km/l	③	7.40km/l	7.24km/l	7.24km/l
	過去実績	2022年	2023年	2024年															
	①	6.77km/l	6.68km/l	6.74km/l															
	②	6.39km/l	6.56km/l	6.40km/l															
	③	7.40km/l	7.24km/l	7.24km/l															
破袋品の有効活用 緩衝材の再利用	実施	破袋品は、タテノプラスチックにてパージ材として利用するなど継続して有効活用を実施している。																	
配送課の排出物の把握 (廃棄物)	実施	2024年度からパレットのリサイクルを開始したため、廃棄量を大幅に削減することができた。 ラップリサイクル量： 389kg/年 パレットのリサイクル 95枚/年																	
倉庫電気使用量の節電	実施	データ取り。																	
廃棄物	可燃物排出量193.1kg以下	188.6kg 達成	目標を達成することはできたが、前年より18kg増加し、2023年移行増加傾向のため、今後更なるペーパーレス（電子化）と排出量削減の推進が必須となった。 請求書の電子化が進められているため、2025年度以降は紙使用量の削減が見込まれている。																
	環境整備活動の推進	実施	継続活動により、社内の整理整頓保持。 また、社内環境の向上、業務効率化に繋がった。																
電気・水道	使用量3,974.4kwh-月以下 ※上限4,115kwh-月 <table><tr><th>過去実績</th><th></th><th></th></tr><tr><th>2022年</th><th>2023年</th><th>2024年</th></tr><tr><td>3,748.05kw</td><td>3,513.43kw</td><td>3,825.08kw</td></tr></table>	過去実績			2022年	2023年	2024年	3,748.05kw	3,513.43kw	3,825.08kw	3,825.08kwh-月 達成	電気量・水道料共に目標を達成。 2024年度 太陽光発電量は56,366kWhであった。 敷地全体の電気使用量は、4年連続で年間使用量の削減ができています。 気温が高い日が長く続いたため使用量も増加傾向にある。							
	過去実績																		
2022年	2023年	2024年																	
3,748.05kw	3,513.43kw	3,825.08kw																	
水道使用量23.2㎡以下 ※上限24.3㎡	20.0㎡ 達成	水道使用量は目標は達成したが、前年を上回ってしまった。 気候状況や人員の増加により変動はするが、引き続き削減活動を実施していく。																	

* 二酸化炭素排出量 67,232.48kg-CO2（2024年度）（電力二酸化炭素排出係数：東京電力㈱0.451使用）

6-1.次年度の取組

	中期目標	環境目標	活動計画																
営業部	① ・燃費 営業車両8台 2023年 15.58km/l 2024年 18.20km/l 2025年 17.80km/l	・営業車両8台平均燃費 17.80km/l 最後にハイブリット車へ入れ替えが7月であった為、最もエアコンを使用する8月を目安に目標を設定してた。	・省エネ運転の継続・積荷の最適化 ・車内清掃の実施 ・車両点検チェックの実施 ・車両5Sの活動実施 ・車両買替時のエコカーへの検討 ・上記内容の社内周知 ・運行記録を取る・効率化の確認 ・ドライブレコーダー搭載による安全確保（危険運転抑止）																
	② ・省エネ製品の販売推進 ※営業目標に準ずる	・省エネ製品の販売推進 ①成形機・周辺機器案件 販売1 2023年度案件実績の43件以上 ②省エネ製品の新商材販促 新商材の開拓	・油圧成形機から電動成形機の提案 ・情報交換の定期実施 ・展示会の参加 ・新商材の開拓、販促 ・上記活動の記録、管理																
	③ ・環境負荷物の少ない製品の提供継続 ※営業目標に準ずる	・環境負荷物の少ない製品の提供継続 新規商材セルロース系高機能バイオ素材	・提案と販売促進（植物由来材料等） ・勉強会＆情報交換の実施＝1回/月 ・上記活動の記録、管理 ・SDSの保管・管理																
	④ ・燃費 役員車両2台データ取り	・データ取り 車両入替が頻繁であるため、目標値の設定が困難																	
	⑤ ・全車両燃費のデータ取り	・データ取り																	
配送課	① ・各車両燃費 <table><tr><td></td><td>2023年</td><td>2024年</td><td>2025年</td></tr><tr><td>6352</td><td>6.60km/l</td><td>6.61km/l</td><td>6.62km/l</td></tr><tr><td>227</td><td>6.30km/l</td><td>6.31km/l</td><td>6.32km/l</td></tr><tr><td>2701</td><td>7.30km/l</td><td>7.32km/l</td><td>7.32km/l</td></tr></table>		2023年	2024年	2025年	6352	6.60km/l	6.61km/l	6.62km/l	227	6.30km/l	6.31km/l	6.32km/l	2701	7.30km/l	7.32km/l	7.32km/l	・各車両平均燃費 4 t (6352) 6.62km/L 4 t (227) 6.32km/L 2 t (266) 7.32km/L ・燃費向上	・エコドライブの遵守 ・配送ルート効率化 ・積載効率の向上 ・アイドリングストップ ・タイヤの空気圧の適正維持 定期的なローテーション
		2023年	2024年	2025年															
	6352	6.60km/l	6.61km/l	6.62km/l															
227	6.30km/l	6.31km/l	6.32km/l																
2701	7.30km/l	7.32km/l	7.32km/l																
② 倉庫内5S活動	5S活動（1回/半期） 破袋品（外注による破袋含む）の有効活用 破袋防止のための緩衝材の再利用	・倉庫内の効率化、破袋未然防止、事故防止 ・破袋品の処理の把握及び再利用の推進 ・パレット等の再利用の検討 ・緩衝材の再利用の検討																	
④ ・倉庫電気量の節電	・倉庫電気量の節電 目標値：1158.75kw以下	・LED化とフォークの電動化が完了した為																	

6-2.次年度の取組

	中期目標	環境目標	活動計画
廃棄物	① ・可燃ごみ排出の削減	2020年度より維持活動とする 可燃ごみ排出削減と分別の徹底 可燃物排出量193.1kg以下	・マニュアルによる分別後の整理と管理の実施 ・廃棄物置き場の徹底と強化 ・可燃ごみと再生分別の定期的周知 ・不燃ごみ分別のルール化と周知
	② ・社内資料の電子化	・コピー用紙の使用量の把握 ・複合機の印刷物カウント	・紙購入枚数のカウント ・裏紙専用プリンターの設置 ・電子化への意識の向上を図る ・電子化に関する社内アンケートの実施 ・電子化へのハードルを下げる活動の実施
	③ ・環境整備活動（5S）	・環境整備活動の推進	・環境整備活動の社内展開
電気・水道	① ・節電	・使用量3,970.4kwh-月以下 電気使用量前年同月数値以下	・節電マニュアルによる活動の継続 ・エアコン設定温度の徹底 ・クールビズ・ウォームビズの推進 ・節電強化月間の実施（夏季）
	② ・節水	・水道使用量23.2㎡以下 ※2019年度平均値（上限23.2㎡）	・節水の継続実施
	③ ・紙の使用量の削減	紙の使用量の削減推進 ※廃棄物部門と連動	廃棄物（業務）部門と連携して、ペーパーレス化を推進する



7.環境関連法規等の遵守状況と違反、起訴の有無

法令名		要求事項	遵守状況
化管法	第4条 (事業者の債務)	・原材料の有害性や取扱い上の注意点の把握 ・SDS (MSDS) の管理と情報提供	遵守
廃棄物処理法	第3条1～3項 (事業者の債務)	・廃棄物の適正な処理 ・再生利用などによる原料 ・適正な処理方法について情報提供	遵守
	第6条 2-6 (市町村の処理など)	・一般廃棄物処分委託時の適正な委託先選択	
	第12条 2-5 (事業者の特別管理産業 廃棄物に係る処理)	・産業廃棄物処分委託時の適正な委託先選択	
	第12条 3 (産業廃棄物管理票)	・産業廃棄物管理票の交付	
フロン排出抑制法	第5条 1～2項 (指定製品及び特定製品の 管理者の債務)	・環境影響度の小さい製品の使用 ・フロン類の適正管理 ・各施設への協力	遵守
浄化槽法	第1～14条	・設置に関する届出 ・年一回の水質検査 ・清掃と保守点検	遵守

■環境関連法規への違反・訴訟などの有無

- 違反・訴訟等

過去10年間、関係機関などから特に指摘は無く、違反はありませんでした。
また、訴訟なども同様に有りませんでした。

- 苦情等

特にありませんでした。

8.代表者による全体評価と見直し

2024年度の日本経済は、3月にマイナス金利を終了し回復基調となりましたが、景気は年初に大手自動車メーカーの不正問題による出荷停止が大きく影響したことや、原材料コストの上昇、運送業の2024年問題により、人手不足や人件費の上昇が続き、結果としてマイナス成長となりました。

当社を取り巻く環境も樹脂事業においては仕入先の原料価格の高騰やユーティリティコストの上昇により、お客様に負担いただく形となってしまいました。当社の特徴である着色工場（タテノプラスチック）の増産体制、品質・技術力を更に強化し、お客様の要望にレスポンス良く対応してまいります。

また、バイオマス事業においては、環境意識の高まりや、従来のプラスチック樹脂に対する厳しい規制から様々な業界に拡大しつつあります。当社においてはNECの開発したNeCycleのグレード開発に注力した結果、スタンダードグレードから難燃グレードまで、5グレードすべてのグレードを量産化できる体制を構築することができました。NeCycleはCO2排出削減や生分解と耐久性の両立、抗菌性・抗ウイルス性に優れた材料です。2025年度においてTATENO BRANDとして市場への拡販に努めてまいります。新紙幣導入によるデバイス事業の特需が一段落し、全社的には販売において厳しい年となりました。

2025年度は中期ビジョンと環境目標達成のため、全社挙げて取り組んでまいります。

2024年12月26日

代表取締役社長 須藤 弘